





本會記事

本會日誌

八月十二日 原治夫氏(蠶二〇)逝去せらる、電報にて弔意を表す。

八月十三日 社団法人千曲會設立許可證到着す。

八月十九日 千吉長長二氏(紡十六)逝去せらる、電報にて弔意を表す。

八月二十三日 社団法人千曲會設立登記申請す。

八月二十九日 社団法人設立登記済に付利害關係方面へ其の旨通知す。

向上資金寄附

左記の通り本會向上資金中へ寄附せらるる洵に感謝の至りに堪へず、本紙上を以て受納證に替へ厚く御禮申上ぐる次第なり

大阪府下中部第二十七部隊福井隊 少尉 望月 藤夫氏

第一回募集後會費

八月三十一日現在) 収入之部 寄附金總額 金千三百三十四圓五十錢

第二回出征會員慰問資金募集

日支事變も已に三ヶ年の長きに及び、此の間吾が會員からも多數の勇士を戰場に送りました。吾が同志勇士の趨く所往くして嚇々たる武勳を樹てざるは無く其の功績は本紙上に依つて屢々報導せられた所であります。

一、金額 隨意 上田蠶絲專門學校同窓會後會

會費領收

(九月五日)

金三十七圓五錢 追悼祭費 金百九十四圓九十二錢 慰問袋送料 金三十一圓四十四錢 統後會費募集費 金三十八圓也 雜品費 計千六百七十圓二十五錢 雜費 收支差引不足額 金六百三十六圓七十五錢

轉任御挨拶

拜啓 秋冷の候各位益々御多祥の段奉大賀候、陳者私儀熊本縣蠶業試験場在職中は一方向ならぬ御世話様に相成り有難く御禮申上候、今般岩手縣蠶業試験場へ轉任致し候間今後共相變らず御指導被下度候、先は乍延引御挨拶申上度如斯に御座候 敬具 昭和十五年九月 岩手縣水澤町新小路二四 小林 重男

御宴會に 御會食に レストラン 香青軒 明期な洋室 落付いた 和室 (數室) 上田市袋町 電話13番

上飯島商店 電話(長)二六〇 (販賣部)三五四

石川金太郎編 (刊新最) 本日蠶絲文學獻集 本書は一九三七年に於て我が國蠶絲學關係の諸々の文獻を網羅したるものにて「蠶絲」(蠶)「製絲」(蠶絲化學)「養蠶」(蠶類)に部類をわけ、無慮二萬に及ぶ文獻の著者名、研究題目、發表年、發表刊物物の名稱、その號數等を記載し、懇切な索引と相俟つて一目瞭然と編輯したるもので過去四世紀に跨るわが國蠶絲學の全貌を鳥瞰するに足ると共に、斯界の研究に無限の光明を點する唯一の資料として特筆すべき著作である。著者は絶版の文獻目録は絶版既に久しく、斯界の翹望切なるに對へて爾來本書の完成に心血を注がれたもので、その努力と功は本書の上に高く評價されずにはかれないであらう。切に大方の御清鑑を待つ。

增訂改版第四十一版新刊發賣 蠶絲業法並關係法規 三六判6號 定價三〇圓 送料九錢 副業緬羊と羊毛加工 四六判紙裝 定價九圓 送料九錢 山田喜平著 改訂十版發賣 農林省 種羊場長 山田喜平著 改訂十版發賣

會員通信

紡十二懐古の會

下呂はヨ下呂は湯の町夫婦の温泉 驚と樂師のヨイヤサ仲のよき 下呂のヨ下呂の娘たちや温泉そだち 宵の口紅ヨイヤサだてぢやない

いて湯湧く飛彈の山里下呂温泉に集つ たものは大阪の鈴木君、名古屋の松澤君 四日市の宮下君、横濱の珍谷北澤君、小 生の五人であつた。七月六日(土)一時頃 鈴木君が眞先に例の學生時代からの因縁 つきの助教の靴を持って颯爽と下車し

飛彈下呂温泉

懐古の會

懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會 懐古の會

於湯之島館

て来る。上りの汽車、下りの汽車、待て どく同級生の顔は見えぬ。松澤、宮下 の連中相違いで来り一行四人になつて来 たがこの連中は何時でも會へて一寸氣拔 けがした様な思ひで高山行の汽車に乗つ て居ると發車實際に北澤兄がやつて来た 北澤兄の参加であらう少くも賑やかになつ た。近い所であり例の賑やかな近藤兄 の居ないのは淋しいと言ひながら若しや 鶴沼でも待合はして居ないかと思つた が此處でも兄の顔は見えないかつた。 名にし負ふ日本ラインを窓外に眺めて 都廳を他所に水入らずの同志五人の心は 楽しい。この邊は中山七里と稱し風光明 眉にして特に溪谷の幽趣は筆舌に盡し難 く、海拔何百米の高地とて所々に山脚踏

の咲きのこれを見ゆ。 汽車の窓から中山見れば 流れ七里の岩つゞじ

かくて沿線の絶景を賞しつゝ夕方湯の 町下呂温泉に到着、直に車を驅つて湯の 島館に投宿、皆いて湯にひたりそだちるに 上山田、戸倉の昔を思ひ出した。 この會合の一つの目的は同窓中に出征 して勝つたる武勳を樹てられ歸還された 鈴木、近藤の兩君の歓迎の意味でもあり 先づ鈴木軍曹の無事歸還を祝し乾盃の後 デザートコースに入る。

一處来て見りや又來ませうと。 誰も湯の島湯の名所 下呂の湯の町湯の湧く所 日毎湧く湯も益田の川原 のぼる湯の島湯のけむり

商賣柄話の初め事變下の代用織維の話 に花咲き、宮下君のラツシユノファイバー 鈴木君からペーパーヤーン等の話が出る と女共、疊屋、紙屋連中の集ひかと笑ふ 七年も昔の頃を思ふかな 信濃に學びし友も集ひて

神仙飛彈山中の山莊春慶の夜は更 け行き、宴劇にして珍語、奇談、洋の東 西を問はず出て来る。宴終りて一同ホー ルに歩を運び衣摺れの音も床しく…… 女共と本收仕込みの北澤、松澤などのイ ンチキステツプが始まる。 時局下明日は七月七日の事變三周年記 念日を控えて自肅の今宵、絃歌の昔も絶 えて静寂の中亦と無いこの様な會合、疲 れては早い。鈴木、松澤、宮下並に小生 と麻雀の卓を圍んで牌を打つ。白が八枚 赤が十六枚来たといつて居る連中の話は 大きくイチャヤンやつて疲れに就く。夏の 夜は短かく落水の音を雨かと疑ひ佛法僧 の一聲はげにも山中深きを思はしめるも のがある。 遠來の客もあり翌朝十時過一同湯の島 館を後に歸路につく。

汽車は出て行く名残はつきぬ 下呂湯の町湯のけむり 下呂新民謡 因に出席者は八名の豫定の所、松澤、 鈴木、北澤、宮下並に星田の五名であつ た。(星田記)

滿洲より田代兄を迎へて

新東京釜山下關一東京と汽車と船は 巨體の田代を滿洲より東京迄運んで呉れ た。八月三日夜田代を圍んでの會が新宿 本郷亭にて開かれた。 田代の巨體を中心に例によつて滿洲話 しに花は咲く。

花の馬車がゆれて行く やはリクラス會は氣分がいい。上もな ければ下もない。皆が皆平地で同じ肥料 で育つた。冗談も云つても恐るもの やうなものだ。冗談も云つても恐るもの の氣分が「ノンビリ」したものだ。

田代は一乙、飯田が一乙で兩人共現役 入替、高尾、高橋、若林が二乙、萬ちゃん が三乙、岡田が翌年再検査、海野は昔 年兵隊なす。 これが今日の「メンバー」、全てが世 間様にかつて大分大人らしく強いて云 へば人間らしくなつて来た。

會の名を一心會と命名した。語源等は ない、一心は一心なり。 會は十時終了、田代の健闘を祈つて解 散。(秀木)

現職員之部 上田 蠶絲專門學校教授 小泉 所 十級傳下賜(八月三十一日) 奧 正巳 陸高等官五等(九月二日)

計報

昭和三十二年卒業、埼玉縣の東洋毛絲株 式會社に勤務の千吉良長二氏(初一六)は 八月十五日病死された。謹んで御冥福を 祈る。

千吉良長二氏逝去 昭和三十二年卒業、埼玉縣の東洋毛絲株 式會社に勤務の千吉良長二氏(初一六)は 八月十五日病死された。謹んで御冥福を 祈る。

弔慰金募集 故中岡 國氏(絲十二) 故原 治夫氏(蠶二十) 故千吉良長二氏(紡十六)

弔慰金報告(九月五日) 故鈴木鐵次郎氏弔慰金追加分 故植村滿義氏弔慰金 故齋藤利雄氏弔慰金

Table with columns for names and amounts, including '弔慰金報告' and '弔慰金募集'.

